

新たなITシステム導入による生産性改善

1. 自社紹介(DXに取り組む背景含めて)

自社の紹介

- ・企業名 : 有限会社海邦ベンダー工業
- ・従業員数 : 82名
- ・売上高 : 約11億円強
- ・設立年数 : 約32年
- ・事業概要 : スチール・ステンレス建具及びその加工・製造（フロント、ドア、自動ドア等）、鉄鋼関連に関する（レーザー切り、プレス、曲げ溶接加工、焼き付け塗装等）商品製造。



ステンレス建具一例



沖縄最大MICE施設の
入口ドア施工一例

DXのきっかけ(背景、取組前の課題等)

- ・新型コロナウイルスを始めとする、2019年以降ウクライナ情勢や円安の影響に関連して社会情勢が読めない時代となってきた。それにより、受注減や受注のキャンセルなどがあり、また現在の世界の情勢の変化により原料原価の高騰、人件費の高騰（製造原価高）による利益の逼迫。人材不足、応募しても確保できない現状など様々な面で経営に影響の出る事態に繋がった。

【取組前の課題】

- ・人員拡大による生産効率の不透明
- ・人員配置の適切性の不透明
- ・世界の流れによる不透明な材料高騰による経営の安定性

新たなITシステム導入による生産性改善

2. 本補助事業で実施した取組

取組内容

【具体的な取り組み内容まとめ】

▶ システム内容：

－営業・生産の情報一元化

⇒システム導入による工数の正確性UP

－スケジュール管理明確化

⇒データの一元化による生産・営業間の情報共有

－生産コストの見える化

⇒工数整理による生産性の把握

▶ 段階的な取組（システム導入後の取組）：

1. 業務改善＋生産コスト見える化

2. 従業員の適切な人員配置

3. 新規市場・新商品への展開検討

4. 新規市場への展開

新たなITシステム導入による生産性改善

3. 事業成果(見込まれる効果、分かった事、出てきた課題等)

見込まれる効果

ポイント① 営業時間の確保



ポイント② 作業員毎の製造コスト精度向上



・新規ビジネス創出



・BtoC市場への参入

・従業員個別毎の勤怠評価

・賃金引き上げ



・雇用拡大



DXに取り組んで分かった事(担当者の意見)

・データの管理をしっかりとすることが会社全体の把握に繋がるということがわかった。システムの導入に触れることで更なる可能性がわかり、取り組みする上で将来の会社のためにも必須な改革であると感じた。

その他(出てきた課題や苦労した点等)

・マニュアル作成時において作業員と営業への説明や理解をしてもらうことに対して、苦労があった。しっかりと取り組まないと今後のデータ取りに影響するため、この点苦労した。

新たなITシステム導入による生産性改善

4. 今後の展開

今後の取り組み



【業務改善の視点】

- 営業効率UP + 新規営業可
- 生産効率UP + 残業減
+ 利益増



【新市場・商品展開の視点】

- BtoC市場への進出
(既存部材の市場)
- 家具市場への展開